

学校教育目標	心豊かな子 たくましい子 自ら学ぶ子
目指す学校像	子どもたちが嬉々として登校し充実感に満ちて家路につく学校 ~みんな友達 笑顔の原小~
重点目標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 2 心身ともに安心・安全な学校生活の構築 3 学校、家庭、地域が、各々の役割を果たし連携し信頼し合う開かれた学校づくりの推進 4 リフレッシュ工事に伴う安全確保、及び子どもが安心できる環境づくり 5 「働きやすさ」と「働きがい」のある職場環境づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともに関わる取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価			学校運営協議会による評価		
年 度 目 標		年 度 評 価			実施日令和9年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○9割ほどの児童が、授業を通してできるようになったことがあると達成感を感じている。 <課題> ○自分の考えをまとめることや、既習事項を用いた解答に苦手意識がある児童が多い。 ○約2割の児童が、自分の考えを進んで発表することに苦手意識をもっている。 ○児童用タブレットが更新され、授業での活用方法を改めて探っていく必要がある。	・「自ら考え、協働的に学ぶ児童の育成」を目指した、学校課題研究の推進	①「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」を単元計画に盛り込み、探求的な学びを推進する。 ②「児童を主語」にした授業計画・実践を積み重ね、児童のエージェンシーを育む。	①学習課題や学習計画を児童が決める場面を設定できたか。 ②仲間と協力して考えたり、仲間の考えを参考にしながら自分の考えをもったりする場面を設定できたか。 ③学びを振り返り、新たな課題を見つける場面を設定できたか。			
		・「さいたま市教育DXブランドデザイン」の推進	①朝の活動「タブレットタイム」を実施し、情報活用能力の基礎となるスキルを高める。 ②発達段階に応じた情報モラル学習を、家庭と連携しながら実施する。	①各学級でタブレット学習を定期的実施することができたか。 ②全学年で情報モラルにかかる授業を実施し、家庭に啓発を行ったか。			
2	<現状> ○児童アンケート「毎日元気に登校している」の質問に対し、肯定的回答が約9割である。 ○保護者や関係機関と連携し、児童が安心して学校にいられる環境づくりを進めている。 <課題> ○「誰かに相談できる」の質問に、2割ほどの児童が否定的な回答をしている。 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し組織的な支援体制づくりが課題である。	・自己肯定感・自己有用感を高める取組の実践	①道徳教育の推進、児童を認める声掛けの継続等、児童の自己肯定感を高める教育活動を実施する。 ②朝の活動「つながりタイム」を実施し、人間関係形成能力を高める。	①児童アンケート「学校への意欲」関連の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 ②つながりタイムの年間計画を基に、計画通り実施できたか。			
		・児童一人ひとりに寄り添った教育支援・相談体制の充実	①定期的な児童アンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握・支援する。 ②教育相談の調整等を行い、学校に相談しやすい環境を整備する。	①学期に1回以上、アンケート及び面談を実施したか。 ②保護者アンケート「教育相談」の項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。			
3	<現状> ○学校運営協議会において「豊かに関わる子どもたち」を目指すための具体的方策について熟議を重ね、地域の方々と児童とが交流する行事を実施した。 <課題> ○学校運営協議会における、児童の主体的な参加が定着していない。 ○コミュニティ・スクールの認知度を高めていく工夫が必要。	・学校運営協議会のシンカ	①学校運営協議会で熟議を重ね、目指す児童像の具現化や学校課題改善に向けての方策を見出していく。 ②児童(主に児童会)と地域が互いに顔の見える交流活動を企画、実践する。	①教員アンケート「学校と保護者、地域との連携」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②年1回以上、学校運営協議会に児童が参加できたか。			
		・地域との連携強化に向けた、情報の外部発信	①学校行事等の保護者・地域の方々への公開機会を精査する。 ②ICT等を活用し、学校運営協議会、チャレンジスクール等についての情報を発信する。	①学校行事等の公開機会を、学期に1回以上設定できたか。 ②保護者、教員アンケート「情報発信」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上となったか。			
4	<現状> ○リフレッシュ工事に伴い、工事完了後の教室等は安全で衛生的な環境になっている。 <課題> ○リフレッシュ工事が今後約3年続く。教育活動を停滞させない環境の整備、及び現状の環境下でも充実した教育活動の継続が必要。	・環境の変化に適應した教育活動の実践	①工事に伴う環境の変化に柔軟に対応し教育活動が停滞することのないように教室等の使用調整と安全確認の対応を不断に実施する。	①教育委員会、工業者との打ち合わせを定期的に行い、各教育活動に工事に伴う対応を折り込んだ計画を立案、実行できたか。			
		・安全できれいな学校の実現に向けた安全点検の実施	①施設設備に起因する事故を起こさないために、定期、臨時、日常の施設設備の安全点検を確実に実施し、不具合への対応を迅速に行う。	①保護者、教員アンケート「安全」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上となったか。			
5	<現状> ○不断の授業改善に向け、教員一人ひとりが当事者意識をもって研修に臨んでいる。 ○学校全体としても個人レベルでも、働き方の効率化が進んでいる。 <課題> ○教員の平均年齢が若年化しているが、教育技術の伝承機会は減少している。 ○教員が「働きがい」や「やりがい」を実感することができる取組が必要。	・「働きがい」を育む授業改善研修の充実	①各教員が目指す児童像を理解し、その具現化に向けた授業を年間2回以上公開する。 ②教員が互いに自己研鑽する研修(メンター・メンティ研修)を実施する。	①授業を教員が年間に2回以上公開することができたか。 ②教職員アンケート「意欲・資質向上」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上となったか。			
		・「働きやすさ」を感じることができる業務改善策の具体化	①働き方改革マスタープランに基づき、業務改善委員会を定期的開催し、具体的提案を検討し、共有・実践する。 ②副担任制を導入し、教員の業務の平準化を推進する。	①業務改善委員会からの具体的な提案を共有し、実践することができたか。 ②教職員アンケート「満足度」の項目で肯定的な回答の割合が80%以上となったか。			

学校運営協議会による評価

実施日令和9年 月 日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等